

## 唐丹文芸

## 「やちぐさ」詠草

## 唐丹短歌会

- はや八十路折たたまれし手のしわは戦後をくぐりし懐かしき宝よ  
 〇 認知症悲し過ぎるやあまりにも一礼し通るおだやかな顔
- 遠い路歩み来たりて卒寿となり子に励まされ明日にむかへり  
 〇 枯草の中より青い芽かすかなるバツケの花に又出逢う春
- 夢ならば覚めよと泣きし時すぎて七回忌ともらう椿散る春  
 〇 あでやかに咲き残る花彼岸会の吾を待ちしや椿一輪
- 亡夫<sup>つま</sup>逝きし齡に近づく年明けて思ひ見せずと子等にはじける  
 〇 戻り寒雪なき庭のしばれ陽が射してはかくれ<sup>隠</sup>被るよに
- 末法の世をさながらに永田町医食住<sup>(肉)</sup>みな偽の關  
 〇 整然としがっこ腐葉土繰り上げて芽吹く水仙咲く春を知る
- 見のかぎり船影もなく夕海に明日を生きゆく力を貰う  
 〇 日和よく波間に浮かぶ海鳥の折々相鳴く声のきこゆる
- 五十年作りし菊に抱かれて冷たくなりし夫の額は  
 〇 野辺送り終わりて座るこの場所に夫は在さず座敷の広き
- 誰も見ぬ二階の部屋の九つの鉢に<sup>こぼ</sup>挙げりて咲く君子蘭  
 〇 半世紀ともに生き来し二人にて冬のひとりの夜は長かり

大津 秀子

川原 セイ

須貝 美佐子

中嶋 多喜子

磯崎 彬

上野 ウタ子

環 あき

高橋 昌子

## 梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。  
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。  
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて  
 第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2167番(長根節子) 55-2174番(盛岩寺)